

# みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



薬師岳(早池峰山周辺森林生態系保護地域)ドローンで撮影 [提供:遠野支署]

## 特集

### 志戸前川地区直轄地すべり防止事業について [東北森林管理局治山課]

## CONTENTS

#### ■美しい森林づくり

遊々の森での活動を通じて「美しい森林づくり」の心を醸成・・・ [津軽森林管理署]

水源の森にミズナラを植えたよ♪・・・ [岩手南部森林管理署遠野支署]

#### ■我が署の名所

川原毛地獄と川原毛大湯滝・・・ [秋田森林管理署湯沢支署管内]





# 志戸前川地区 直轄地すべり防止事業について

東北森林管理局治山課

## 1. はじめに

東北森林管理局では、令和元年度から岩手県栗石町において志戸前川地区直轄地すべり防止事業に着手しています。直轄地すべり防止事業とは、民有林治山事業のうち、工事規模が著しく大きい箇所や、高度な技術を要する箇所などで、国土の保全上特に重要である場合に、都道府県知事からの要請を受け、国が直接実施する地すべり防止事業です。

今回は、本事業の取組概要を紹介します。

## 2. 事業着手の経緯

岩手県栗石町では、平成25年8月の豪雨により、志戸前川流域において多数の山腹崩壊や土石流、河川の氾濫が発生するなど、下流域で甚大な被害を受けました。

この災害を受け、岩手県が志戸前川流域の保全対策のための調査を行ったところ、流域内に滑動の危険性の高い大規模な地すべり地が確認されたため、併せて地すべり対策の検討が行われました。

その結果、地すべりの規模が大きいため

対策には相当な事業費と高度な技術が必要と見込まれたことから、岩手県知事から国による事業実施の要請を受けて、当局が本事業を行うこととなりました。

## 3. 事業地区の概要

本事業地区は秋田県と岩手県の県境付近、奥羽山脈東側の栗石町西部に位置し(図①)、隣接地にはJR田沢湖線が通り、下流域には御明神地区の住宅や農地が広がっています(図②)。

また、多雨・多雪地域で地下水が非常に豊富な地域であり、加えて、新第三系の脆く崩れやすい地質が分布していることから



図① 位置図

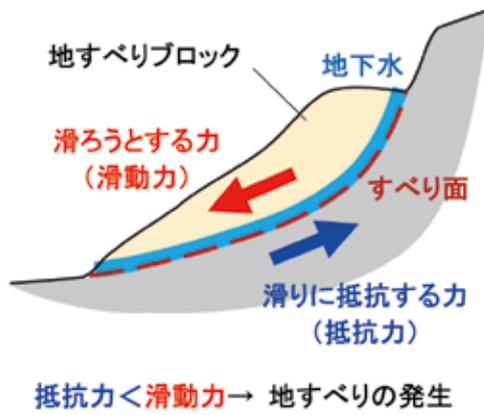


図② 事業地区と保全対象との位置関係

ら、土砂崩れや地すべりが発生しやすい場所となっています。事業対象となる地すべりブロック（以下「ブロック」）の大きさは、斜面長約800m、幅約480m、土層厚約65mで、頭部（上部）には陥没帯や滑落崖が存在するなど明瞭な地すべり地形を呈しており、末端部では地すべりによる押し出しによって多数の土砂崩壊（溪岸崩壊）が発生しています。

#### 4. 事業の概要

一般的に地すべりは、ブロックが下方に滑ろうとする力（滑動力）が、すべり面で発生する抵抗力を上回ることにより発生します（図③）。抵抗力は地下水水位の上昇などにより小さくなり、滑動力は、ブロックの自重が重くなると大きくなります。そのため、地すべり防止対策では、地すべりの要因となる地下水を排除したり、ブロックの



図③ 地すべり発生の模式図

すべり面の傾斜が急なほど滑りやすくなるはりますが、傾斜が緩くても地下水などにより抵抗力が低下すると滑動力が上回り、滑りやすくなります。

自重を軽くしたりすることなどで、地形を安定した状態へと改善することが重要となります。

本事業地区でも地下水が豊富なため、地下水を排除するための排水トンネル工や集水井工（写真①・②）を中心に、ブロック上部の土を取り除き自重を軽くするための排土工など、各種工事を組み合わせ、地すべりの安定化を図ることとしています。また、地すべり末端部の荒廃溪流の保全のため、治山ダムなども計画しています。現在想定している対策工の概要は図④のとおりとなっており、総事業費はおよそ55億円、事業期間は令和元年度から10年間の全体計画としています。



写真① 集水井工の例



写真② 排水トンネル工の例

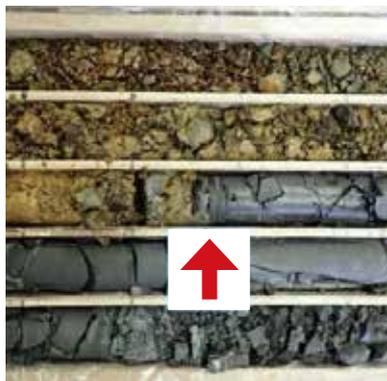
#### 5. 現在の取組状況

先ほど説明した全体計画は、事業開始直前の限られた調査に基づき、ブロック全体の形状を想定して立てたものです。そのため、具体的な対策工の実施に当たり、各種

工事の工法、配置、数量などからブロックの安定化の向上効果を推定し、必要な安全水準を達成するために効果的かつ適切な組み合わせを検討する必要があります。そのためには、ブロックの形状や土質条件、地下水の分布状況など、地すべり地の地下構造を



図④ 地すべりブロックと想定される対策工の概要



写真④ ボーリングコア

ボーリングにより採取した土（コア）から地下構造を推定します。矢印部分をすべり面と推定しており、そのほかのデータとの整合性を確認しながら、すべり面の位置を総合的に判断します。



写真③ 調査ボーリング

ボーリングにより縦穴を掘り土（コア）を採取し、土質、地質等を直接確認します。

明らかにする必要がある、特に、本事業地区のような大規模な地すべりでは、ブロックの立体形状をできるだけ正確に把握することが重要です。また図③のとおり、地すべりに対する抵抗力は地下水水位の上昇などで低下することから、地下水の経年変動を把握することも重要です。このため、現在は既存の調査を補完し、地すべり地の地下構造と移動特性を詳細に把握するため、各種調査を行っているところです。

調査は、ブロックの土層厚やすべり面の傾斜角度などのブロックの形状とその経年変動を把握するため、調査ボーリングや地中変動量調査（歪み量の観測）などを、地



写真⑤

地中変動量調査・地下水水位調査

ボーリング孔内にパイプ歪み計及び水位計を設置し、地表面に設置した観測装置で地中の変動量（パイプの歪み量）や地下水水位のデータを記録します。

下水の分布とその経年変動を把握するため、地下水水位調査（地下水水位の観測）などを行っています（写真③～⑤）。これらの調査を事業地区内の複数の地点で行うことで、ブロックの立体形状を詳細に把握することができ、また、航空レーザ測量により地すべり地全体の地形判読なども行っています。

調査は昨年度から実施しており、ブロックの形状や地下水の分布などが徐々に明らかになってきています。しかし、調査・観測期間が短く、歪み量や地下水水位の経年変動の把握までには至っていません。これらを明らかにするとともに詳細な立体形状の把握に向け、今年度も引き続き調査・観測を行うこととしています。そのほか、地すべり地の全体像について、地下水の移動経路を把握するための調査や土質試験など、様々な調査・試験を行い、総合的に判断することとしています。



写真⑥ 御明神地区住民説明会の様子

本事業地区は、主に粟石町の御明神財産区が所有する土地となっており、周辺地域を含め多くの関係者の皆様のご協力とご理解をいただきながら行っているかなければなりません（写真⑥）。今後も事業が円滑に進むよう、関係機関と連携し、地域の安全・安心確保に向け取り組んでまいります。

本事業は、仮設工や一部先行可能な工事を進めています。本格的な対策工はこれからです。今後は、地すべり地の地下構造の把握と移動特性の解析を進めるとともに、他事業地の事例も参考にしながら、効果的な工法の配置や組合せなどの検討を重ねていく予定です。また、具体的な対策工の実施に当たっては、地すべりの安定化が確実に図られるよう、施工による安定化の向上効果をモニタリングにより見極めながら実施していく考えです。

## 6. おわりに

## 着任にあたって

東北森林管理局長

柳田 真一郎



このたび、四月一日付けで東北森林管理局長を拝命した柳田です。

少し自己紹介をしますと、私が入庁して最初の現場は、下北半島の薬研担当区事務所です。五月、まだ山には雪のある中、青森ヒバの深緑、次々と芽吹くブナ、ミズナラ、カエデ、トチノキ等の淡い緑や黄緑の新葉、清流、そしてこれらが次の季節へと移りゆく美しい姿を今も忘れることができません。担当区主任から旧青森局本局、本庁を挟みながら中部局、北海道局、九州局と、思い返せば20年程国有林に勤務したことになります。

当局管内の勤務は28年ぶりとなりますので、地域の状況を可能な限り早く把握し職責を果たしていきたいと考えております。

まず最初にお話ししたいことは、新型コロナウイルス感染防止についてです。皆さんもすでにご承知のとおり、緊急事態宣言が解除されたものの、感染リスクが消えたわけではありません。政府の専門家会議による「新しい生活様式の実践例」等で示されているとおり「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い」、「三つの密を避ける」などが求められています。

これまでの皆さんの良識ある行動に感謝しているところですが、みなさんご自身はもちろんのこと、大切な家族、職場の仲間等のため、引き続き感染予防策を確実に実施していただきますようお願いいたします。

さて、四月の緊急事態宣言以降、地方、首都圏の社会経済活動が停滞し、林業・木材産業の先行きに不透明感が増しています。私たちは各事業の実施により企業活

動の維持、雇用の確保に務めつつ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と収束後を念頭に、関係行政機関等とも連携して各般の取り組みを進めていく必要があります。

また、このような中にあっても、東北地方の森林・林業・木材産業が、利用期を迎えた人工林資源を背景に、木材需要を喚起しつつ需要に応じた木材・木製品を供給するとともに、次世代の資源を着実に造成していくことが重要です。エリートツリーをはじめとした優良種苗や早生樹の活用、作業の機械化、ドローンやICT活用による作業等の効率化など新たな研究・技術の芽が生まれてきています。このような技術等を国有林が積極的に実証し、その成果を民間関係者の皆さんと共有していくことなどにより、林業・木材産業の発展、さらには地域の振興に資するよう取り組んでいきたいと考えます。

また、管内には世界遺産である白神山地をはじめ、奥羽山脈、月山、朝日・飯豊連峰など原生的な自然状態が維持されている森林、ブナ、ミズナラなどの変化に富み

素晴らしい自然植生があり、その景観、癒やしや体験の場などの提供による保健・観光的利用や、他分野の方々との交流等も活かし、私たちが管理経営している資源を再認識しこれにより地域の振興につなげていくことも重要です。

近年、短時間豪雨の発生頻度が高まり、山地災害発生リスクが一層高まる懸念があります。多様な森林づくり等を通じた予防的対策や東日本大震災で大きな被害を受けた海岸林の整備、地震、台風等で発生した崩壊地、地滑り地等の早期復旧を今後も着実に進め地域の安全・安心につなげていきたいと考えます。

新型コロナウイルスによりこれまでの日常が一変し、地域の皆さんは新たな対応を迫られています。私たち自身も仕事のやり方や生活様式の見直しを進め、このような状況にあるからこそ、地域の期待に応え、東北森林管理局が地域になくならない組織となるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしく申し上げます。

# 美しい森林づくり

## 遊々の森での活動を通じて 「美しい森林づくり」の心を醸成

津軽森林管理署

津軽森林管理署管内では、6つの団体が「遊々の森」として協定を締結しており、7箇所、約77haのフィールドを活用して、それぞれの団体が、それぞれの特色を活かした活動を行っています。

その中から2つの団体の活動を「美しい森林づくり」につながる取組として紹介します。

この2つの団体は、企業への活動の呼びかけ（企業の社会的責任やSDGsなど）や幅広い年代での様々な活動を行っています。

一つ目は、「津軽人文・自然科学研究会」の「などわの郷（あなたと私の郷）」で、活動の合い言葉は「守ろう地球のたからもの」です。

この団体の活動は、日本ユネスコ協会連盟と連携し、三菱UFJフィナンシャル・グループの社員に呼びかけ、当署を含む林業関係団体で構成する「育樹連絡会」が協力しています。

伐採跡地への広葉樹の植樹活動を行い、その後は、下刈↓除伐・枝落としなどの作業を年1回行い、毎年、東京や大阪などから、100名前後が参加しています。

昨年（R元年）で活動が一区切りがついたとのことで、これまでのような活動は縮小することになりましたが、この活動に参加した方々が、それぞれの地域で「美しい森林づくり」に向けて活動してくれることを願っています。



「などわの郷」での育樹活動

二つ目は、「青森県森林組合連合会」で「白神インタープリテーションフィールド」と「つがる白神湖遊々の森」の名称で、2つの協定を締結しています。

津軽ダム（津軽白神湖）周辺の広葉樹林で、植樹活動や自然観察をはじめとして、普段あまり経験することのない、木登り体験（ロープを使ったツリークライミング）、セラピーヨガ体験や広葉樹林内での瞑想など、様々な活動を行っています。幼児から大人まで、また企業の社員（家族も含めて）なども記念植樹を行っています。

平成28年8月11日には、「山の日」の制定を記念して、当署や西目屋村とも連携して、記念植樹を行い、森林・林業・環境への理解を深め「美しい森林づくり」に貢献したと思っています。

この団体の遊々の森での活動目標は、「森林の持つ機能について理解を深める、自然環境への理解を高める、林業の一連の作業体験を通じ、持続可能な森林資源の活用と国土保全に資することへの理解を図る」とされており、林野庁が提唱している「木づかい運動」（植える、育てる、収穫する、上手に使う）↓「美しい森林づくり」につながるがあります。



「白神インタープリテーションフィールド」での植樹活動

今回紹介した2つの団体のほか、他の遊々の森で、同様の体験活動に参加した方が、地域の身近な自然に関心を持つ↓森林づくりに関心を持つ↓地球環境を考えるとこの心の醸成が、更に周りの人に広がることで「美しい森林づくり」につながることを考えています。

## 水源の森に ミズナラを植えたよ♪

岩手南部森林管理署遠野支署

5月12日、遠野支署では、NPO法人遠野エコネット及び遠野市



ササの根が張って大変



苗が濡れないように早く！

と協力して、遠野市の水道水源である「琴畑水源遊々の森」で、地元の土淵小学校の4年生16人と一緒にミズナラの植樹を行いました。

現地はかつて牧野として利用されていた国有林ですが、前述した三者が締結した遊々の森協定により、市民による水源の森の再生活動のフィールドとなっています。

子供たちは、ササが根を張った固い土を慣れない鍬やスコップで一先懸命に掘って植穴をつくり、ミズナラの苗木に優しく土をかけて植えていきました。

植樹の後は、苗木がシカに食べられないよう保護チューブを取り付けて、最後に、琴畑川からバケツで水を汲んで、苗木が濡れないようにかけてあげました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために様々な行事が中止になっていますが、青空の下、澄んだ空気の中で思いっきり体を動かすことができ、子供たちはとても満足した様子でした。



楽しかったね♪



## 新庁舎が完成しました。

### 津軽白神森林生態系保全センター

平成18年4月から青森県所管庁舎の一部を津軽白神森林生態系保全センター事務局として借受けし、業務を行っていましたが、このたび鱒ヶ沢・芦沼森林事務所敷跡に、津軽白神森林生態系保全センターと森林事務所合同



新庁舎外観



新庁舎完成セレモニー



新庁舎玄関



意見交換会



階段（壁材スギ材使用）



1階 会議室（壁材ヒバ材使用）



2階 事務室（保全センター）



1階 倉庫（書棚スギ材使用）

の庁舎を新築しました。

新庁舎は令和元年8月に着工、令和2年1月28日に完成し、3月4日に完成セレモニーを行いました。

完成セレモニーは、当初盛大に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス対応のため必要最小限の参加者で執り行われました。セレモニー後に新庁舎において地元鱒ヶ沢・深浦両町長と局長等の意見交換会を実施しました。

新庁舎は、国産材（スギ、ヒバ、その他）を使用した木造2階建てで、1階が会議室と倉庫、2階が当センターと津軽森林管理署鱒ヶ沢・芦沼森林事務所の事務室が配置されています。

なお、津軽白神森林生態系保全センター及び鱒ヶ沢・芦沼森林事務所は、3月12日に引越しを終え新庁舎での業務を開始しておりますので、近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

## ボランティアによる 森林の巡視活動等

### 三八上北森林管理署

当署では、平成15年度から、国有林野における巡視等の森林保全活動や森林環境教育における現地案内・指導等の活動について、ボランティアとして協力いただける方を森林ボランティアパトロール員として登録しています。

平成30年度に登録したパトロール員の2年間の期間満了に伴い、引き続き活動希望者を募集したところ、申請者があったので、4月23日（木）に、当署会議室において、森林ボランティアパトロール員の活動登録証の交付及び意見交換会を行いました。

はじめに署長から活動登録証等を交付し、安全には十分注意され、無事故で活動を終了されるようとの挨拶に続き、担当者から森林パトロールに当たっての注意事項等を説明した後、意見交換を行いました。

意見交換会の場では、パトロール員から日頃の活動状況の報告があり、「山を歩いていると熊の糞が目につくので、熊スプレーがある」と心強い」という意見や、「二ホンジカを

目撃する機会が増え、増加している傾向にあるようだ」「ここ数年、温暖化の影響か蜂の巣を見かけなくなった」などの情報提供がありました。

最後に、森林ボランティア活動の趣旨を踏まえ、安全に活動されるようパトロール員にお願いし、会議を終了しました。



活動登録証の交付の様



チラシを配布して山火事防止の注意喚起

また、三八上北森の会による「山火事防止パトロール」が5月9日～17日の間、延べ18名で行われました。本パトロールは、平成24年から東北森林管理局青森事務所、三陸森の会、一般財団法人日本森林業振興会青森支部の3者による協定に基づき、国有林野内において、山火事発生危険時期に入林者への山火事防止への注意喚起と森林への理解と関心を深める活動を行うことを目的としております。パトロール実施者の報告によれば、「積雪は例年より少なく山の開きが早かったものの、気温が上がらず山の恵み（山菜）は遅い感じがする。」「新型コロナウィルスの外出自粛要請の影響で入林者が少なく・・・みんなstay homeだな。」とのこと。その他、パトロール中、国道沿いの民有林の古損木が道路上に倒れる場面に遭遇し、肝を冷やしたとのことです。皆さんも山火事は勿論のこと、不意の事故に遭わないよう注意しましょう。



# ミラー効果!

アオダモ、シウリザクラ、ホオノキ、ミズキ、マタタビ、サルナシ

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

ステイホームで活動自粛の人類を横目に、自然はいつものごとく初夏の風景を見せてくれています。これから梅雨時にかけて、ハナアブなど受粉昆虫が活発な季節で、今回は初夏に咲く、高木性の樹木の白い花を特集して紹介します。

**アオダモ**は高さ15mほどになり、花は5月下旬、円錐の花序から糸状の細い花弁の花を咲かせます。樹皮は灰褐色でなめらか、材は弾力性がよく野球のバットの原料として使われます。**シウリザクラ**は高さ20mほどの高木で、ウワミズザクラより深山に生え、樹皮の皮目が縦、葉柄が赤く腺点が葉の基部付近にあるところが特徴。花は総状花序で5弁の小花が甘く香る。材は床柱や框に使われます。**ホオノキ**は高さ30m程の高木で、樹皮は灰色。花は6月初旬頃直径20cm程と大型で、甘い芳香があり虫たちを引きつけます。材は柔らかく下駄や版木に使われます。**ミズキ**は枝を扇状に伸ばし高さ20m程の高木で、6月初旬に枝先に散房花序を付け、7~8mm程の小花の集合花で独特の芳香がある。材はこけし

等の原料となる。**マタタビ**と**サルナシ**はともにつる性で樹木に這い上がる。花の時期にマタタビは葉が白く変色する。これは葉の表面と葉肉に空気を含む層を作り光の乱反射を利用しているようで、擦りつけると元の緑になる。実は楕円形で先端がとがり黄色く熟す。サルナシの実は楕円形で黄緑。葉柄は赤く開花時に変色はしないところがマタタビと違う。蔓は強靱でシラクチズルと呼ばれ、吊り橋の原料となり徳島県祖谷のかずら橋が有名。ともに花は7月初旬で5弁の小花を数個まとめて付ける。

初夏の樹木に白花が多いのは、訪花昆虫に光の屈折によるミラー効果でアピール度を高め、さらには甘い芳香で受粉昆虫を誘う狙いがあります。小魚のようなキラキラ光るルアーに誘われる魚や、ネオンや焼き鳥のにおいに誘われる僕らは何かしらの共通点を感じますが、我慢で寂しい限りです。いつものごとくの自然な生活が何より大切なことを実感したステイホームですが、ミラーは自分を映す鏡!ですから、効果がどう出るか不安ですね。



①アオダモ



②シウリザクラ



③ホオノキ



④ミズキ



⑤マタタビ



⑥サルナシ



# 森林官からの手紙

## 鹿角の食と文化

米代東部森林管理署 地域統括森林官 長崎 博行

私が勤務する花輪・八幡平合同森林事務所がある秋田県鹿角市は、青森県、岩手県、秋田県が接する北東北の中心に位置しています。高速道路を利用すると、青森市から約1時間、盛岡市から約1時間、秋田市からは約2時間30分で訪れることが出来ます。

花輪森林事務所（花輪・柴内担当区）は、鹿角市内の旧尾去沢町と旧花輪町、旧八幡平村の一部を含めた約9千7百HAの国有林を管轄し、また八幡平森林事務所は旧八幡平村の約1万4千HAの国有林を管轄しています。

この4月で、私は3年目の勤務となりました。八幡平森林事務所を事務取扱で担当していることもあり、毎日が様々な案件への対応で、まだまだ勉強させてもらっています。例えば、以前に森林官として勤務したのは20年以上前の平成6年10月から平成10年3月までの期間で、当時の神戸営林署箕面森林事務所以来となり、この間に発生した平成7年1月の阪神淡路大震災を思い出します。

さて、ここでいざれも1300年の歴史を誇る観光名所を紹介しましょう。

1 尾去沢鉾山は、鉾脈型銅鉾床と呼ばれる脈状の銅鉾脈を採掘した鉾山でした。尾去沢鉾山では、これらの坑道、採掘跡を一般に公開した施設で、貴重な産業遺産が多く残されており、歴史を見て、知って、体験できる観光鉾山です。かつては日本3

大銅山のひとつとして繁栄し、長らく日本の産業界を支えました。（近代化産業遺産）

2 花輪ばやしは、鹿角市の夏の終わりを告げる行事となっております。日本三大ばやしの一つに数えられています。毎年8月19、20日に開催され、豪華絢爛な10台の屋台が数々のお囃子を奏でながら、華やかな踊りとともに花輪町内を未明まで練り歩きます。（ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財）

3 大日堂舞楽とは、鹿角市の八幡平小豆沢地区にある大日霊貴神社（オオヒルメムチジンジャ、通称大日堂）で、毎年正月二日に金色の面をつけて舞う「五大尊舞」など7種類の舞楽が奉納されます。（ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財）



1 「史跡尾去沢鉾山」



2 「花輪ばやし」の屋台



3 「大日霊貴神社」

このように歴史深い独特の文化を持つ鹿角ですが、十和田八幡平の豊かな大地が育んだ郷土色豊かな食もおすすりめです。全国的に有名な秋田名物きりたんぼは鹿角が発祥の地と言われており、「きりたんぼ鍋」は地元の家料理です。また、鹿角市の郷土料理に「けいらん」があります。室町時代から伝わる料理で、クルミと胡椒が入るのは鹿角市のけいらんだけと言われています。そのほか「かづの牛」、「鹿角ホルモン」等々があります。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、先にご紹介した花輪ばやしの今年の開催は中止と決定したと聞いていますが、住めば都でまだまだ鹿角の魅力を満喫し、探し求めていきたいと思っています。



# 我が署の名所

## 川原毛地獄と川原毛大湯滝

(秋田県湯沢市)

秋田森林管理署湯沢支署管内

日本ジオパークにも認定されている、ゆざわジオパーク内の「川原毛地獄」と「川原毛大湯滝」を紹介します。

【川原毛地獄】は青森県の恐山、富山県の立山と並ぶ日本三大霊地の一つであり、王朝時代から多くの修験者や参詣人が訪れた女人禁制の山でした。標高約八百mのその一帯は、昔の硫黄鉱山の跡で、草木の生えない山肌が露出しており、岩肌のいたるところから水蒸気や火山性ガスが噴出する荒涼とした光景が見られます。遊歩道を進んでいくうちに、地獄に迷い込んでしまったかのような錯覚にとらわれます。

川原毛地獄駐車場から遊歩道を約七百m下ると大湯滝駐車場があり、そこからさらに約五百m下ったところにあるのが「川原毛大湯滝」です。川原毛大湯滝はその名のとおり、滝そのものが温泉という全国的にも珍しい「湯の滝」です。約二十mの高さからダイナミックに流れ落ちる滝は、その滝壺が天然の湯船となっており、地元の人にはもちろん、多くの観光客からも親しまれておりま



川原毛地獄



川原毛大湯滝



川原毛地蔵菩薩



川原毛を見守る地蔵様

す。入浴適期は、七月上旬から九月中旬で、入浴する際は水着の着用が必要です。

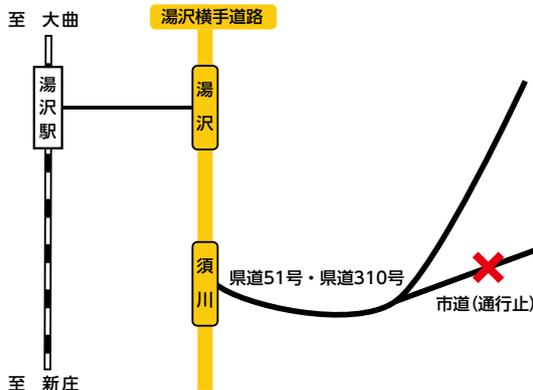
大湯滝駐車場付近には「川原毛地蔵菩薩」が建立されています。この場所は、今から千二百年程前、月窓和尚が悟りを開きお寺を建立した場所とも言われ、昭和六十二年には、硫黄鉱山で亡くなった方々を供養するため、地元有志の方の寄進により、建立されました。毎年秋には川原毛地蔵祭が開催され、たくさんのお参りや地元の方々などが集まります。川原毛一帯を見守るのかのような地蔵菩薩のお姿に、思わず手を合わせたくくなります。

是非一度、足を運んでみて、日常とはかけ離れた不思議な空間を体感してください。

また、近くには約千二百年前に開湯された「泥湯温泉」や川の両岸が断崖絶壁である「三途川溪谷」といった見所も多くありますので、是非そちらにも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

最後にお知らせですが、今年度は工事のため大湯滝駐車場へのアクセス道路は通行止となっております。地蔵菩薩と大湯滝へ行くには川原毛地獄から徒歩でしか行けませんのでご注意ください。

秋田森林管理署 湯沢支署  
〒012-0857 秋田県湯沢市千石町2-2-8  
TEL 0183-732164  
FAX 0183-738768



### ◎交通アクセス

湯沢駅から川原毛地獄駐車場まで車で45分 (約30km)



【川原毛地獄】



遊歩道  
(徒歩700m)  
下り15分  
上り25分



【川原毛地蔵菩薩】



遊歩道  
(徒歩500m)  
下り10分  
上り15分



【川原毛大湯滝】

